

第 30 回愛媛勤労者福祉研究集会

アンケート回答

平成 25 年 9 月 26 日 (木) 13:30 ~

愛媛県勤労会館

Q 1：基調講演（労働運動と労働者自主福祉運動の関係性/講師 高橋 均氏）の内容について、どのような内容が印象に残りましたか。

- 労働組合と事業団体の役割がそれぞれにあること。そして、連携が必要であること。
(男性・50代)
- 労働者福祉運動の重要性を改めて感じた。(男性・50代)
- 講演は非常にわかりやすい内容でした。労働者自主福祉運動の原点回帰は重要です。一方で、現状を踏まえ将来を見据えた方向性を検討する必要があると思います。(男性・50代)
- 労金の成り立ち(男性・20代)
- 労働金庫が出来るまで、今後の組合活動方針について(男性・30代)
- 今後の福祉運動の進め方について、具体的に示唆をえていただいたと思います。参加者のみでなく、現場職員にも浸透させるべきだ。(男性・60代)
- 当面する労働運動の課題「貧困（貧乏+孤立）格差社会（2）三つのエピソード」流れがわかりやすく良かったです。(女性・50代)
- 血の通った温かいお金（つながり）を大切にしていきたい。(男性・40代)
- 理解した。改めて助け合い、支え合いの大切さを痛感した。(男性・40代)
- 労働金庫の存在意義が理解出来た。(男性・40代)
- 労働運動の課題（格差是正）(男性・40代)
- 私たちも歴史を学び、原点に立ち返ることの大切さと、今後の運動をどう構築していくのか考えさせられました。(男性・40代)
- 連合運動と労福協運動との関係性(男性・50代)
- 労金・全労済の任務と労働運動のつながりを強く感じました。(男性・それ以上)
- 労福協の必要性(男性・40代)
- 労金・全労済との関係について。歴史的な関係について勉強になりました。(男性・40代)
- 労働者福祉活動の歴史がよく理解出来、今後の活動の参考になりました。(男性・50代)
- 格差・連帯の社会(男性・60代)
- 「非営利型」を今日的に定義すれば、出資に比例しないこと。(男性・50代)
- 初めての参加で、労福協活動の成り立ち、労働運動との関係等について知る好機となった。また、講師も分かり易い説明で、興味を持って聞くことが出来ました。(男性・60代)
- テーマの内容が非常に分かり易く説明されたので理解することが出来ました。最後のＴＰＰの話と関連した配当金の使い方は組合として考えてみたいと思った。(男性・40代)

- 協同組合と株式会社の違い、営利と非営利についての定義等。(男性・40代)
- 共済の自主運動の成り立ちが分かった。(男性・30代)
- 全労済、労金との関係性を再認識することが出来た。(男性・30代)
- 労金、全労済は自分達で作ったものである。(男性・60代)
- 滅亡した。組織に共通した3点の話。(女性・それ以上)
- 各事業団体の重要性を再確認出来た。若い方々に伝えたい。(男性・それ以上)
- 良い時も悪い時も含めてお互いを支える連帯社会の大切さのところです。(女性・10代)
- 労金や全労済の生い立ちを再確認しました。若い人達に聞いてもらって、その存在の意味を伝えて行くべきだと思います。(男性・50代)
- 労働運動の重要性。末組織労働者に対する重要性。(関わり方)(男性・50代)
- 改めて連帯・協同を考える機会をもてたこと。(男性・50代)
- 労働金庫や全労済の発展は、「血の通った温かいお金」の拡大(男性・40代)
- 銀行と労金、保険会社と全労済、大型店と生協の違いを理解できても、協同組合を利用することの大切さまでは理解しにくいのでは。やはり協同組合を利用することのメリットが感じられなければならないのでは。(男性・60代)
- 格差是正への取組みと対策。労働金庫、全労済の関係。(男性・60代)
- 共済活動の中、協同組合と我々単組との連携を更に高めていく必要があると感じた。(男性・30代)
- 非常に話がわかりやすかった。(男性・40代)
- 支え合い、助け合いの意味合いが改めて納得でした。(男性・40代)
- 労金と全労済の歴史。最低賃金1,000円の考え方。(男性・30代)
- 今後のソーシャルユニオニズムの取組みについて。(男性・40代)
- 1年を通じて勤務した給与所得者の実態。(男性・40代)
- 労福協と労働組合・生協の関係性、労働金庫・全労済と労福協との関係性を分かり易く説明いただき、改めて労働運動、労働者自主福祉運動について考えるきっかけになりました。(男性・30代)
- 共済事業の歴史説明を若手組合員へ教室し直すことが、これからの中の共済事業の発展に重要であると思う。(男性・40代)
- 労働者福祉運動の推進において原点(歴史)を知り、関係性を解りやすく説明している点が印象に残りました。(男性・50代)
- 大変わかりやすく、丁寧に話をされたので、かなりの部分理解できた。(男性・60代)
- 労働組合としての今後運動方針をどの様な福祉事業を考えるか、課題の重大さを感じる。(男性・60代)

- 労働者運動の歴史の振り返り。労金、全労済は宣伝ではなく、運動方針を！協同組合と株式会社の違い。(男性・40代)
- 労働金庫と労福協の果たす役割。(自主福祉)(男性・50代)
- 貧困、低位平準化、最低賃金1,000円の実現。(男性・30代)
- わかりやすく参考になりました。(男性・40代)
- 労金、全労済の労働運動への取組みの具体的中身について。(男性・50代)
- 3つのエピソード。(男性・50代)
- 労金・全労済の設立について。(男性・30代)
- 労働金庫、全労済の推進強化をしなければならない。(男性・50代)
- 労働金庫の本質とかが良くわかった。今まで知らなかった。(男性・それ以上)
- 久しぶりに労働組合の必要性、重要性を教えてもらった。(女性・50代)
- 最近の傾向として、コア労働者（職域）での利用率が下がっており、将来を見据えた時、心配なテーマがある。地域を伸ばしながら組織人への対応に力を注がなければ。(男性・60代)
- 労金を益々発展させていく必要があると強く感じました。(男性・60代)
- 忘れかけていた原点を想い起こすことが出来、運動に発展させるようにしたい。(関わり方を考えていきたい)(男性・60代)
- 講演を聞いて、改めて労働組合と労働者福祉運動との関わりや重要性を再度認識する良い機会となった。今後は改めて単組内で組合員に対し、重要性を伝えていきたい。(男性・30代)
- 労働者がみんなで知恵を出し合い、力を合わせて作り上げてきた労働者自主福祉運動について長い歴史の上に作り上げられたんだ、と改めて思った。(女性・50代)
- 労組の中心課題にならない部分で現在社会に最も大切な部分であるサラ金、生活保護、消費者被害などに關わる諸事情については労福協の中心課題となる。(女性・60代)
- 改めて労働組合との関係を再構築（強固に）する必要性について組織拡大（仲間づくり）との関連を含めて今後の課題。(男性・50代)
- 取り組むべき問題として サラ金 退職者関係 生活保護 消費者被害の4つが印象に残りました。(男性・50代)
- 二宮尊徳の利息を取らない信用事業。(男性・50代)
- 労働金庫、全労済の誕生や、詳しくわかりやすい講演でした。(男性・40代)
- 米露の協同組合は、免税になっていることを初めて知った。(男性・30代)

Q 2 : 特別報告（愛媛の若者雇用をめぐる諸問題/講師 菱谷 文彦氏）の内容について、どのような内容が印象に残りましたか。

- 若者の失業率や非正規化の進行は、少子化や将来の社会構造にも大きな不安要素となっている。（男性・50代）
- インターンシップの重要性、若者の就労に対して、地域のサポートの重要性。（男性・50代）
- 多面的な分析で興味深いものでした。資料が見づらいのが残念です。（男性・50代）
- 雇用は回復しているが、格差があること。（男性・20代）
- 企業と学生の意識のギャップについて。（男性・30代）
- 豊富な資料と分析は行政に携わっている者として感心した。（男性・60代）
- 愛媛の就職内定率が悪い。原因をグラフにより説明を受けわかりやすかった。非正規雇用が多いこと。（女性・50代）
- 非正規だった自分の若いころを思い出した。正規でなければ結婚も出来ない「若く苦しい時代を」今、多くの若者がそのような思いをしているのか。（男性・40代）
- 社会全体でねばり強く対応していくことが大事だと感じた。（男性・40代）
- 愛媛県の雇用状態を理解出来た。（男性・40代）
- キャリア教育の必要性。（男性・40代）
- 若者雇用の状況がわかりやすかった。今後、改善が必要。（男性・40代）
- 失業率の内訳。（男性・50代）
- 若者の非正規雇用が増加している事に将来に不安があります。（男性・それ以上）
- 若年者の就職の難しさ。（男性・40代）
- 非正規、若年層の労働環境（ミスマッチ）の問題。これに対する支援についての情報が分かった。（男性・40代）
- 愛媛県内の雇用状況が良く解った。資料の文字が小さく見づらかった。（男性・50代）
- 3年以内の離職率の高いこと。若者中心に非正規率が上がった。（男性・60代）
- 企業が大学教育の必要性を重視していないこと。（男性・50代）
- 多方面からの切口で若者雇用の実態、諸問題が整理されており分かり易かった。文字が小さかったことが残念でした。（男性・60代）
- 企業と学生の間でのミスマッチ。（男性・40代）
- 3年以内離職率が全国平均よりも高くなっている、労働条件の悪さが理由に挙げられている。（男性・40代）
- データをよくまとめていた。（男性・60代）
- 早口でわかりにくかったが、若者の働く姿勢にも問題があり、現場での指導と本気で働く意志があるのか課題が多い。（女性・それ以上）

- 正規雇用の重要性を運動の中心課題として取り組んでいく。(男性・それ以上)
- 若者もインターンシップを体験したり、早めから仕事について考えていくことなど雇用する企業と若者のお互いの努力が必要だというところです。(女性・10代)
- 細かい資料をもとに説明していただいてわかりやすかった。(男性・50代)
- 愛媛の若者雇用の問題がわかりました。県内の就職は大変です。自身の息子も大変でした。(男性・50代)
- データが現実社会を表しているが、具体的対策が見えない。対策はあるのだろうか。(男性・50代)
- 若者のうちで無職の人が仕事に就いていない理由が、雇用のミスマッチによる理由が6割もあるということ。(男性・40代)
- 地元での就職にこだわりすぎるのでは。都会で就職し、そこで得たスキルを地方で活用できる再就職がスムーズにできるようにしてはどうか。(地方には望む職種が多くはないと思う)(男性・60代)
- 完全失業率(年齢別)の推移、正規・非正規雇用の実態。(男性・60代)
- 少子化も進む中、若年層の雇用問題は非常に難しい。会社側も難しいはず。(男性・30代)
- 定年退職者の再雇用が少し若者の雇用を奪っていると思う。だから、再雇用をしないと技術の継承が出来ない難しさがある。(男性・40代)
- 数値PATA。(男性・30代)
- 若者の雇用のミスマッチについて、やはり、小・中・高校生の年代からどの様な職業あり、その職業に就くためにはどういった学校へ進学すべきかを教えていくべきではないかと思います。(男性・40代)
- 愛媛県内の3年以内の離職率について。(男性・40代)
- 若年層の失業率という観点で見ればアベノミクスがとりざたされてはいるが、まだ改善が必要なのだと再認識出来ました。(男性・30代)
- 若者の就職に対する分析が全国と愛媛で比較されており、問題点が理解しやすいです。(男性・40代)
- 若者を取り巻く就労環境の分析。(男性・50代)
- 若者の就職に対する考え方が「ものづくり」から「サービス」に変わっているのかなと思う。やはり日本は「ものづくり」を重点的に「サービス」ではなく、「おせったい」で学んでほしい。(男性・60代)
- 若者の雇用への考え方と企業側のミスマッチ。就職支援の体制。(男性・40代)
- 非正規雇用者の就労環境の悪化。質問のあった定年延長と若年層就職の矛盾。(男性・50代)
- 企業と学生の考え方の差異。(男性・30代)

- 若者雇用をめぐる問題と若者が抱える問題点が少しわかった。(男性・40代)
- 新規学卒者の厳しい就職状況と選択肢が少ない為、離職も多い状況。(男性・50代)
- 社会全体での対応をしていく。(男性・50代)
- 愛媛県若者雇用のうつりかわり。非正規労働者の増加。(男性・30代)
- 愛媛は、3年以内の離職率が全国平均よりも高い。(男性・50代)
- 正規労働者が減少。収入が少ない。結婚率が低い。少子化。今後に憂い。(男性・それ以上)
- データ中心の説明。諸問題もう少し突っ込んだお話をしてほしかった。(女性・50代)
- 資料が多種多様で的が絞りにくい。活字も大きくして欲しい。(男性・60代)
- 支援活動の強力化をもっと推進して欲しいと思いました。60才以上の人のやる気活用と若年者の就職のバランスをうまくとってほしい。(男性・60代)
- 正規雇用化の推進の必要性を痛感した。(男性・60代)
- 講演を聞く中で、若年労働者の離職率の高さに驚いた。労組においても若年労働者の離職率が高いことから今後の対策に役立てていきたい。(男性・30代)
- 色々なデータを基に説明いただき、愛媛の現状を知ることが出来た。若年雇用については、様々な問題点があり、その一つの解決策として早い時期でのキャリア教育が重要であると感じた。(女性・50代)
- 若年者の離職率が高い。また、就職率が低くなっているのは、重要なミスマッチと構造変化によると考えられて低学年の頃から職業についての教育やインターンシップ制度を取り入れることが必要ということ。(女性・60代)
- 3年以内離職が多いことに驚いたが、離職した会社側の反応についても分析出来れば今後の採用・就職の活動に参考になるのでは。
- 大学でインターンシップをやっているところがこんなに低いのかと思った。これが充実すれば初職選びに役立つだろう。
- 愛媛県の失業率の高さに驚いた。(男性・50代)
- 表・グラフでわかりやすかった。若者の就職が出来ない、フリーター、ニートが増えている。組合としては、正規社員で組合員を増やしていきたい。(男性・40代)
- リーマン後のことを見てわかるが、以前のH13年頃からリーマンまでに徐々に良くなっていた頃についてどうしてなのかを知りたかった。今後に活かせると思う。(男性・30代)

Q 3：特別報告（生活困窮者支援制度の構築に向けて/講師 北村 祐司氏）の内容について、どのような内容が印象に残りましたか。

- 自立支援が画期的であること。早期成立を！（男性・50代）
- 生活困窮者の支援について。法律の決定を！（男性・50代）
- 生活困窮者支援制度の取組みについて。体系的に理解しやすい内容でした。（男性・50代）
- 一人ひとりの活動が大切であること。（男性・20代）
- 生活保護制度の見直しなど。（男性・30代）
- 生活困窮者支援制度の取組みについて無知であったが、制度についての理解が深められた。（男性・60代）
- 生活困窮者支援制度の中身。（女性・50代）
- 地域全体で支援していく制度や繋がりを策定する。（男性・40代）
- どういう取り組みをしていくのか理解出来た。（男性・40代）
- セーフティネットとして重要な制度であることから困っている人に十分周知出来るように県市へ要請が必要。（男性・40代）
- モデル事業実施。（男性・50代）
- 生活困窮者自立支援法の内容全体について話が聞けたことです。（男性・それ以上）
- 新しい法律が施行されることを知った。（男性・40代）
- 早期的な支援、早期対応が大切。（男性・40代）
- 自公政権となっても一定のレベルで進みそうなので、注視したい。（男性・50代）
- 生活困窮者支援制度の現況と今後の動き、それに対応するやるべきこと等、まとめて知ることが出来た。（男性・60代）
- 新たな生活困窮者支援制度の概要等。（男性・40代）
- 構築に向けて頑張ってもらいたい。変な利用をさせないようにしてもらいたい。（男性・60代）
- 国よりお金はおりても、指導者がしっかりと目的到達は困難。（女性・それ以上）
- 弱者の支援は社会責任であることを再認識した。（男性・それ以上）
- 一人一人に対してよく話を聞いて、その人に合った支援の種類がたくさんあるというところです。（女性・10代）
- セーフティネットの構築は必要だと思いますが、本当に必要な人とそうでない人の見極めも必要だと思います。（男性・50代）
- 生活困窮者支援制度は、一人一人の対応が非常に難しいと感じました。（男性・50代）

- 制度の創設は必要である。また、行政の協力と就労の受け入れる側と受け入れる側への行政支援がないと無理。結果、生活保護と同じになる。(男性・50代)
- 非正規の人を救うのは、大変である。非正規を減らすような施策を国に求めるべきでは。(男性・60代)
- 日本全体の底上げが必要だと思った。(男性・40代)
- 生活困窮者自立促進支援の考え方。(男性・30代)
- 法整備が進む中、体制づくりへの働きかけが必要。(男性・40代)
- 新たな生活困窮者支援制度について。(男性・40代)
- 制度の内容がイメージ図等を通して分かり易く説明いただき、参考になった。(男性・30代)
- 生活困窮者への支援に対する方針、取組がまとめられており、流れが理解出来たと思います。(男性・40代)
- 今後の取り組みにあたっての4項目の視点について具体的に課題を上げている点。(男性・50代)
- 生活自立に向けて努力されているか。内容的、個人が相手であり「難しい」と思う。資料等で大変であることがよくわかった。(男性・60代)
- 行政では、隅々までフォローは無理であり、協同組合として社会的役割を発揮していかなければならない。(男性・40代)
- いくら手を差し伸べても、若者の甘えた考え方がある限り、現在の状況を変えるのは無理では....。少し、わかりにくかった。だらだらと話して何がポイントか分からぬ。「いずれにしても」が多すぎてそれからが長すぎる。(男性・50代)
- 内容が太枠すぎて、説明が矢継早に行われる為、よくわからない。(男性・30代)
- もう少し話を聞いたかった。(男性・40代)
- 支援制度の在り方。(男性・50代)
- 自立支援について。(男性・30代)
- 支援法の成立後でないと動けないのでは?と思いました。(男性・それ以上)
- 制度がややこしくて、もう少し本当に困っている人が受けやすいようにしてほしい。(女性・50代)
- 労福協の基本的取り組みではないか。労金、全労済が支える以前の課題である。具体的骨子制度化を早急に進めることが大事。(男性・60代)
- 各施策が絵に描いたもちにならぬように配慮してもらいたいのと、本当に困っている人には血の通った支援をしていただきたいと思いました。(男性・60代)
- 細かすぎる。もっとシンプルな取り組みやすい制度にするべきでは?人材の育成(窓口対応者等)も重要。(男性・60代)

- 生活保護制度の見直しは必要であると考える。昨今では、地域別最低賃金額より生活保護費の方が、金額が高いのはおかしいと考える。ワーキングプアをなくす為にも早めの対応が必要。(男性・30代)
- あまり耳慣れない「生活困窮者支援制度」の仕組みや、今後の流れについて概要を知ることが出来た。(女性・50代)
- 生活支援そのものは地域づくりにつながる。(女性・60代)
- 特にないが、動向と取り組みは理解出来た。(男性・50代)
- かなり長期の施策が必要でしょうが、決して後退することなく、やり続けていくことが大切なことであると思う。(男性・50代)
- 愛媛県がモデルPS事業に手を挙げないのに驚いた。(男性・50代)
- 支援制度とは、こんなに色々な支援があるのを初めて知りました。(男性・40代)
- 政権が変わり、今日の説明にあった法案が本当にうまくいくのだろうか。(男性・30代)

Q 4：今後の労働運動・労働者福祉運動を考える中で、どのようなことを感じていますか。

- 可能性や夢のようなものを持ってて、取り組めれば良い。理念の学習の継続が必要。
(男性・50代)
- 労働運動、組合運動ともに必要性を感じた。(男性・50代)
- 個人として仲間として出来ることをしていくことが大切である。(男性・20代)
- 組合活動自体、一度見直す時期ではないか。(男性・30代)
- 各事業団体において、原点に返った視点で、事業を展開していく必要があると考えます。(男性・60代)
- 労働運動、若者の就職率が低いことで次の代につなげていけないと思います。(女性・50代)
- 今後の TPP 対策。(男性・40代)
- 労働弱者の底上げ(格差是正)が重要である。(男性・40代)
- 雇用を生む社会になることが大切である。(男性・40代)
- 弱者の立場になって考えることが重要。(男性・40代)
- 一番は連携強化が重要と感じている。定期的に真剣な論議を行い、一緒になって前へ進める。(男性・40代)
- 若年層の教育。(男性・50代)
- 現職組合員の皆様が今日学ばれたことを是非実践していただきたいと思います。
(男性・それ以上)
- 格差の是正と連帯の社会づくり(男性・60代)
- 未組織労働者の組織化の取り組みが必要。(男性・50代)
- 労働組合のない企業や、あっても実質活動が出来ていない中小企業の組合に対して、連合や、産別組織がしっかりとサポートをする必要を感じました。(男性・40代)
- 社会的な広がりを持った労働運動という意識が大切であること。(男性・40代)
- 時代が変わっているが、労働組合の良い所はのばしていきたいと思う。(男性・60代)
- 上部段階の学習と後姿に信頼される努力をしてほしい。(女性・それ以上)
- 各事業団体、事業の更なる推進に努めたい。(男性・それ以上)
- 高橋講師からありましたように、未組織労働者に対する支援や、活動や何か出来ればと思います。(男性・50代)
- 未来に引き継ぐ責任を感じます。(男性・50代)
- 企業内の非正規従業員に対しても、組合員と同様に福祉事業団体を利用出来るよう取り組んでいくことが望ましいと思う。(男性・60代)

- 労働組合の組織率をもっと上げるべきだと思う。(男性・40代)
- 組合員のお客様化。(男性・30代)
- 地域に根差した労福協運動を地道に行っていくことが重要。(男性・40代)
- 組合員に対してもっと労金、全労済の大切さを教えていきたい。(男性・40代)
- 原点回帰し、今にあった内容で若手組合員への労働組合の取組みに理解を求めて活性化していければと思います。(男性・40代)
- 労働原点運動の重要性見える化し、職場展開を進めるうえで、構成組合の職場代表員の理解と、行動をいかに進めることができるかを考えること。(男性・50代)
- 1945年生代としては、今の社会は社会福祉がある程度「あたまうち」になっており、今後まだまだ不十分な点を見直す運動が必要であると感じる。(男性・60代)
- 運動の中で「共助」を今一度考えながら行動していきたい。(男性・40代)
- 原点に帰るべき。(男性・50代)
- 少しづつでも草の根の運動を行うこと。(粘り強く)(男性・30代)
- 組織発足時に帰り、再度考えてみることが大切だと思う。(男性・50代)
- 歴史を伝えていきたい。(男性・30代)
- 労働組合、組合員の減少を止めること。社会への発信をもっと。(男性・それ以上)
- 先ずは、労働組合の意識向上、発足の意見・背景などを改めて教育することが大事。(男性・60代)
- 東京(中央)のみの活動(運動)に片寄っているのではないか。全国で展開すべき。汗をかくべき。(デモ等)(男性・60代)
- 労働組合にも言えることですが、非正規雇用の拡大により、労働組合の組織率の低下と合わせ、必要性が薄れているのではないか。今こそ、原点に帰り組合の必要性を訴えるべき。(男性・30代)
- 相互の助け合いのこころ。連帯の力が大切だと思った。(女性・50代)
- 労働運動の大きな柱である労働者福祉(相互扶助、共助)について組合員であるとのメリットを浸透させることが重要。(デメリットもあるが)(男性・50代)
- 現在のこれから労組役員が労働者福祉運動の大切さを若い組合員に説いていくてほしい。(男性・50代)
- 組合員同士、支え合い、助け合い、困った時はお互いさままで、協力していきたい。(男性・40代)
- アベノミクス、TPPにはじまり、格差等我々の生活環境は明るいとは言い難い、と改めて感じた。(男性・30代)

Q 5：今回の「研究集会」についての感想をお聞かせ下さい。

- 勤労者の暮らしが、大変になっている中で、労働組合、労福協、事業団体の役割が益々大きくなっていることを改めて感じた。その役割や連携の在り方に知恵と工夫が必要だ。これからが楽しみでもある。大変勉強になりました。有難うございました。（男性・50代）
- 研究集会開催にあたり準備から始まりご苦労様でした。今後も労働者、福祉事業の発展の為に頑張って下さい。（男性・50代）
- 啓発、学習の機会としてとても良かった。（男性・20代）
- 毎回、色んな角度から勤労者について講話いただきありがとうございます。組合執行部自体歴史など知識が欠けているように思えますので引き続き過去から未来へつなげる講話を宜しくお願ひします。（男性・30代）
- 貧困（貧乏+孤立）で、すぐ頭に浮かんだのが最近のニュースでよく聞く亡くなつた親を隠すということ。西条、東温市他県でもあり「相談する人もなく、お葬式も出せなかったのか」と思います。「生活困窮者支援制度」が出来れば相談をしていけるので、自治体では是非運用にもっていって欲しいです。（女性・50代）
- 「非正規職員と組合員が共に歩む世界を確立しなければ」と改めて思った。若者に向けて労福協で行う例が多々あったので今後進めなければと思った。今回学んだことを実現していきましょう。（男性・40代）
- 労働運動全般について聞けて参考になった。（男性・40代）
- 過去の歴史も含め、大変有意義な学習会でした。今日集約した型の学習会でしたが、各地区労福協においてもこの旨の学習会が展開出来れば組合員等に対しても理解が深まると思います。今後も幅広く全体で共有していくことが重要だと感じました。（男性・40代）
- 当面の課題に即した良い企画であったと感じています。（男性・それ以上）
- テーマ、講師とも良かった。（男性・60代）
- 基調講演はわかりやすく、機会ある毎に同様の話をしていく場を増やしていくつらえれば、少しずつでも協同組合と労働者の福祉向上になっていくのではないか？と思う。（男性・50代）
- 初めての参加でしたが、労福協運動の成り立ちや関連団体との関係等を知る機会になりました。（男性・60代）
- 連合、労金、全労済の関係性について、詳細な説明により理解が出来た。（男性・40代）
- 3時間は長いように思う。（男性・60代）

- 女性の参加者が少ないな、と実感。中央労福協の方の基調講演は、その必要性、背景など注目させながらわかりやすくお話をいただき、さすがだと思った。ありがとうございました。(女性・それ以上)
- 先輩方の貴重な意見を聞くことが出来、大変ためになりました。労働者福祉活動の具体的取り組みを理解しました。(男性・50代)
- 今回、初めてこの研究集会に参加させていただきましたが、自分の知らないことばかりで、大変勉強になりました。意義のある集会だったと思います。(男性・40代)
- 組織化されていない労働者が「働きがい、生きがい」を感じ、安心して暮らせる世の中をつくることが大切であると思う。組織内にしか目が向かない労組中心の活動では、取り組みは進展しにくいのでは。労福協が、国、県、市町村ともっと協力して取り組む必要があると思う。その為国や県への要望やその回答などを周知し、それを踏まえて今後どのように活動していくか考えるような集会にしてはどうか。
(男性・60代)
- 組合員の職場環境向上及び生活環境の向上の為、助け合いの精神を更に持ち、協同組合と連携、単組の運動、活動を推進していくかなくてはならないと感じました。勉強になりました。今後もあらゆる角度から勉強、活動をやっていこうと思った。(男性・30代)
- 今後も参加したい。(男性・40代)
- 基調講演は、歴史も踏まえた労働組合(労福協)の在り方(考え方)を説明いただき、非常に勉強になった。特別報告、は、報告、データが多く明確な部分(目的や問題)が良く理解出来なかつた。(男性・30代)
- 歴史から今後の課題や、取り組みまで拝聴出来た。今後も労福協活動に微力ながら携わっていきたい。(男性・40代)
- 基調講演の内容が大変分かり易く印象に残りました。又、当該内容については、若年層の組合員、組合役員が聞くべき内容と感じたので可能であればもっと若い世代が参加しやすい場があれば良いと思いました。(男性・30代)
- 労働組合の活動の重要性が再確認出来たと思います。特に助け合いの精神で取り組まれている「共済活動」については、認識を新たに若手組合員への教宣を積極的に取り組みたいと思います。(男性・40代)
- 特に、高橋講師の労働者福祉運動の関係性の演題を産別構成組織で機会があれば講演を考えたい。(男性・50代)
- 講師の一方的な話なので、ただ聞くだけの感じである。時間配分も考えて、内容をある程度しぶる様にしてはどうか。(男性・60代)
- 労働組合の原点について再度、考えさせられた。次回は、出来れば中央と地方の組合運動、福祉運動について講演を聞き勉強したい。(男性・60代)

- 高橋講師の話が印象に残っています。若年層をはじめ、労働者自主福祉運動の成り立ちは、不变のものとして教育していかなければならないと思いました。（男性・40代）
- 各地域でより多くの組合役員に聞いてもらえる機会を作った方が良い。また、仕事の都合等で参加出来ないことのない様な時間設定をお願いしたい。全ての組合役員が聞くべきではないだろうか。組合役員も世代交代が進み、労働運動を理解していない。（男性・50代）
- 定年年齢の引き上げにより、若者の採用抑制されることもあることについては、わかるが、業種によっては資格（免許）を入社時に取得していないといけない場合があり、免許の取得にかかる費用が高額であり、年々取得者が減少している。このような事例があることについても県労政課は把握していただきたい。（男性・30代）
- 中央労福協アドバイザー、高橋講師の話がわかりやすかった。（男性・40代）
- 知らないことばかりでした。若い人にもっと教育する必要を痛感しました。組合員の減少により政治への関わりが少なくなった。組織内議員の減少（組合内からの立候補、議会への進出）が見られ、労働者の権利などの主張の場が減少しているのでは？（男性・それ以上）
- 勉強になりました。（女性・50代）
- 3つとも内容がとても良かったと思います。但し、3人共、発音がはっきりしない（キレが悪い）ところがあって、聞きとりづらい時があった。（男性・60代）
- もう少し、講演内容（テーマ）を絞って研究集会を開催してみてはどうか？研究集会参加者も講演を聞くだけではなく、参加型、パネルディスカッション形式で討論方にしてみてはどうか。（男性・30代）
- 今後の労働者自主福祉運動と労働運動の課題について学ぶことが出来ただけでなく今回は、特別報告で身近である愛媛の若年雇用の現状と今後の課題を知ることが出来たことが良かった。（女性・50代）
- 全体的に良い内容だった。（男性・50代）
- 講演も報告も良いテーマだったと感じる。（男性・50代）
- 労働運動と福祉運動の大切さを理解出来た。（男性・50代）
- 初めて参加させていただきましたが、とても勉強になりました。職場に帰って報告させて頂きます。（男性・40代）